

広げよう紙リサイクルの輪

メモ用紙や包装紙も資源です

ゴミはわたしたちの日常生活の中で増え続けています。ゴミの分別や減量は、環境への負荷を減らし、持続可能な循環型社会にしていくなかで重要なポイント。今回は、日常生活において身近で比較的取り組みやすい紙リサイクルについて、清掃業務課で話をお聞きしました。担当は市民編集委員古田島・諸岡。問い合わせは同課 ☎890-0273 へ。

1人当たり年間391キログラム

市ではゴミを1年間でどれくらい処理しているのか聞いたところ、昨年度は、約12万7,037トとこのと。内訳は可燃ゴミ11万1,804ト、不燃・粗大ゴミ6,730ト、資源ゴミ8,503トです。これは市民1人当たり約391キログラム、1日

当たり約1キログラムのゴミを出しているそうです。また、地域での有価物集団回収や紙リサイクル庫で回収された新聞紙・雑誌、段ボールなどの古紙類は1万1,982トに上り、貴重な資源としてリサイクルされました。

毎日10グラムのゴミの減量で大きな効果が

毎日の暮らしの中で出しているゴミを、わたしたち一人一人が毎日10グラム減らすだけで、市全体では年間1,000トを超えるゴミが減らせる計算に。毎日の生活の中でゴミを少なくする努力をし、物をできるだけ大切に使う習慣を身に付ける必要があります。

紙を捨てる前にちょっと考えて

雑古紙とは、パンフレット、封筒、メモ用紙、コピー紙など。比較的細かい物が多いので、ほかの可燃ゴミと一緒に捨ててしまうことが多いそうです。紙は破れていてもリサイクルへ出しましょう。

市内27カ所に紙リサイクル庫

古紙は、地域の有価物集団回収に出しましょう。都合で集団回収を利用できない人は、各支所や地区公民館などに設置してある紙類の回収場所、「紙リサイクル庫」が活用できます。平成17年から設置が始まった紙リサイクル庫は、現在市内27カ所に。児童文化センターなどにある紙リサイクル庫の一部は、土日曜も利用で



紙リサイクル庫の中はこうなっています



これが**雑古紙** みんな資源だよ！リサイクルしてね

紙の箱、洋服の台紙、封筒、ノート、メモ用紙、コピー紙

カレンダー、紙の袋、パンフレット、カタログ、チラシ類、包装紙

汚れた紙、においの付いた紙、写真・感熱紙・カーボン紙などの加工紙、シュレッダーで裁断された紙は燃えるゴミへ

独自に設置している自治会も

「わが町リサイクル庫」は、家庭から出た紙類などの資源を持ち込むことができるように、町の集会所などを活用して、自治会が独自に設置した資源回収庫のことです。設置している自治会では、住民の皆さんの関心も高く、一丸になって紙のリサイクルに取り組んでいます。特徴や魅力は、町内にあるので気軽に立ち寄り、都合がよい時に持ち込めること。回収日まで待てなかったり、回収日に都合が悪かったりした場合は、ここに持ち込めるので、家の中を整理することができます。

イベントや出前講座で意識高めて

9月1日から10月31日まで行われた紙リサイクル10万人キャンペーンや、10月21日の前橋リサイクルまつりでは、多くの古紙が集まりました。このようなイベントを通して、紙リサイクルに対する市民の意識がさらに高まることを期待できると感じました。

また、市役所で行っている出前講座では、風呂敷を使ったマイバッグ、ラッピング実習などユニークな企画も。ゴミの減量化やリサイクル問題についても説明会の依頼が多いそうです。10人程度集まれば、職員が会場へ出向いて説明をしてくれるので、ぜひ、利用しましょう。

編集後記

今回の取材を通して紙リサイクルの意識は市民や地域に徐々に広がってきているように感じました。紙の分別は面倒だと思わない気持ちが必要です。また、過剰包装を断るなど、家庭に不要な紙を持ち込まない、増やさないことにも心掛ける必要があると感じました。